

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-138	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	家基 009-901	家庭基礎 明日の生活を築く		

1. 編集の基本方針

教育基本法の目的の実現、学校教育法の目標の達成のために、家庭基礎の特質を効果的に生かした学習ができるよう、以下の趣旨のもとに教科書を編修しました。

◎基礎・基本となる知識や技術について、男女ともに家庭生活を営む担い手として、また生涯を見通して生活を創造する主体として、総合的・体験的かつ科学的に習得できるようにする。

◎男女共同参画型社会に対応していけるように、生活の諸面にわたって男女が共同責任で生活を営む意識が高められるようにする。

◎人は一生を通して発達するという生涯発達の視点に立ち、高齢者を含めて人間を中心に据え、生涯を通して自立をめざし育ち続けることが認識できるようにする。

◎人権を尊重し擁護する意識を高め、様々な人びとが対等にそれぞれの立場を受け入れ合い、さらには異文化とも共生していくための視点をわかりやすく表現する。

◎少子高齢社会に対応し、高齢者自身を自立した主体者としてとらえ、異世代間が相互に学び合い支援し合う生活のあり方や共生社会の方向を見通すことができるようにする。

◎地域の環境保全の視点、ひいては地球環境と共生していくための視点を重視し、自らの生活を見直して、持続可能なライフスタイルを築く力を育成できるようにする。

◎生活を科学と文化の両面から受けとめ、生活の主体者として、受け継ぎ、さらに発展させる視点を重視して記述する。

◎生活の営みに必要な生活資源や生活活動にかかわる事柄を関連づけて理解し、生活設計やキャリアプランニングに生かせるように、参考事例を随所に豊富に取り上げる。

教育基本法第2条の目標の達成のために、以下のことを編修の基本方針としています。

☆広く情報を収集し、自ら判断できる主体性の形成

- ・ 日常の家庭生活の中で、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考えて主体的に判断・行動し、問題を解決する力が育つことをめざしています。
- ・ 学習の見通しや課題意識をもって学び、生活に応用発展できるように、全体構成や各章の導入、本文中の事例、実習例などを工夫しています。また、教科書の最終章に生活設計を位置づけ、全体の学習をまとめる形で、将来のライフスタイルに向けた意思決定ができる構成にしています。

☆生活に関する知識や技能の習得と勤労観の形成

- ・ 家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を系統的に習得・定着できるように図り、また体験的に学ぶことにより、職業観が養われることをめざしています。
- ・ 各章では小学校、中学校の学習の上に積み重ねて実践できる内容を配置し、また、生活事象のなぜを科学的に捉えるQ&Aを多数設定し、総合的・多面的に生活を理解できるように図っています。またそれぞれの学習内容に関連した職業に携わる人のメッセージ(『キャリア』)を掲載することで勤労観の形成を図っています。

☆共生の理解と他者とかかわる力の育成

- ・ 地域や社会に目を向け、地域に住む様々な人びととかかわる学習を多く設定し、社会の一員として他者と協力し、支えあうことができることをめざしています。
- ・ 直接的・間接的なかわり方の事例を多く示し、共生社会をつくっていく力を育めるようにしています。

☆持続可能な社会の実現のための教育

- ・ 環境教育・防災教育を重視し、生徒が現状の課題を認識し、持続可能な社会形成に主体的にかかわっていけることをめざしています。
- ・ 教科書全体で、環境に配慮した生活のしかたや、将来にわたった安全・安心な暮らしを考える題材を掲載しています。

☆伝統や文化に関する教育の充実

- ・ 日常生活に受け継がれてきている衣食住などの伝統文化を取り上げています。その伝承の意義を理解し、また自分の生活が文化や歴史を創っていることを自覚し、次世代に継承すべき生活様式を創っていく態度を形成することをめざしています。
- ・ 日本ばかりでなく、世界の伝統文化やその歴史についても数多く取り上げています。

以上について、日常生活に関心を持ち、自分にできることについて実践・行動し、主体的に生活を営む能力を育てられることをめざしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	- 参考やコラム、またイラスト・写真などで多彩な事例を示しているの、幅広い教養が身につきます。（知育 第1号） - 教科書全体で自立をテーマに、生活を問い直し改善できるよう、考え体験する学習を充実させています。「ホームプロジェクト」では、生活に活かす多様な課題例を示しています。（自主、自律 第2号） - 職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている人のメッセージを入れています。（キャリア教育 第2号）	全体 p.49・80・89・146・177 他
1章 青年期	- 自分は今、「おとな」なのか「子ども」なのか、生徒が自分の生活をふり返って考えを表明し、主体的に活動ができる場面を用意しています。主体的に生きる「自律」についても合わせて学習できるようにしています。（自主、自律 第2号） - 家庭でも社会でも男女が協力して支える社会をめざす男女共同参画社会の重要性を示し、図・写真・イラストなどを中心に公平な配慮をしています。（男女平等第3号）	p.10～15 p.12・13 p.14・15
2章 家族・家庭	- 男女共同参画社会の理念のもとに、両性ともに子育てに参画することを示しています。（男女平等 第3号） 「共生社会における社会や地域」において、リスクに対する共生の必要性を示しています。（自他との協力 第3号） - 家族に関する法律を示し、生活と法律を結びつけて考えられるよう配慮しています。（正義と責任 第3号）	p.18～21 p.41 p.34～41 p.30～33
3章 保育	- 子どもに必要な環境についての資料を充実させています。（体育、食育 第1号） - 誕生した生命を尊び、子どもが健全に発達していくための子どもの権利と福祉を具体的に示しています。（生命の尊重、第4号）	p.56～59 p.48～51
4章 高齢者	これからの自分が高齢期につながっていくことやすべての人が年齢や性別などに関係なく、人間らしく尊厳をもって生き、共生していく必要性を示しています。（自他との協力 第3号）	p.78 p.82～84
5章 食生活	- 食事による体づくりの必要性に関する内容を充実させています。（体育、食育 第1号） 「持続可能な食生活をめざして」と題して、環境の保全に寄与する態度を養うことをめざしています。（環境教育 第4号） - 地域生活に根ざしたものであることを示しています。和食・郷土料理を数多く取り上げ、また日本各地の伝統文化の事例を充実させ、我が国の独自の文化と先人の工夫に気づき、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしています。（伝統文化、郷土愛 第5号） - 諸外国に目を向けさせる題材を豊富に取り上げ、世界の国々に関心を持ち、他国と協力して、これからの国際社会に貢献する態度を育むようにしています。（国際理解 第5号）	p.89 p.138～141 p.120・121 p.122・123 p.138
6章 衣生活	「これからの衣生活」と題して、環境の保全に寄与する態度を養うことをめざします。（環境教育 第4号） - 地域生活に根ざしたものであることを示しています。和服などを数多く取り上げ、また日本各地の伝統文化の事	p.164～165 p.148～151

	例を充実させ、我が国の独自の文化と先人の工夫に気づき、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしています。（伝統文化、郷土愛 第5号） ・諸外国に目を向けさせる題材を豊富に取り上げ、世界の国々に関心を持ち、他国と協力して、これからの国際社会に貢献する態度を育むようにしています。（国際理解 第5号）	
7章 住生活	・「これからのまちづくり」と題して、環境の保全に寄与する態度を養うことをめざしています。（環境教育 第4号） ・近年の自然災害の事例を積極的に取り上げ、日頃より防災への意識を高め、生命を尊ぶ態度を身につけることを目指しています。（防災教育、生命の尊重、第4号） ・伝統的な民家、また日本各地の伝統文化の事例を充実させ、我が国の独自の文化と先人の工夫に気づき、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしています。（伝統文化、郷土愛 第5号）	p.182～185 p.178～181 p.172・173 p.149
8章 消費生活と持続可能な社会	・「ライフステージで家計を見る」、「生涯の生活設計」などにおいて具体的な将来設計と向き合い、職業と生活との関連を意識することができるようになっています。（キャリア教育 第2号） ・これからの社会を生きる主体として、権利には責任が伴うことを示し、また公正な社会に向けた取り組みを随所で取り上げ、具体的に考えられる課題を工夫しています。（正義と責任 第3号） ・便利な消費生活の裏で進んだ地球環境の破壊」と題して、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指しています。（環境教育 第4号）	p.188～193 p.216～223 p.204～205 p.208～213
生活設計	・他者と協力しながら自分の将来を考えていけるよう主体的に学習できるようにしています。（自他との協力 第3号）	p.216～221

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 写真・イラストの取り上げ方では、男女の平等、高齢者や障がいのある人、外国籍の人などに配慮し、生徒の「共生」「人権」の意識が培われるよう工夫しました（学校教育法第51条第1号）。
- 健康で安全な生活を送るための基礎的な学習を充実させるとともに、国民の健康と安全を守る制度や法律の必要性についても理解できるように工夫しました（学校教育法第51条第1号）
- 各章では、それぞれの学習内容に関連する分野で職業に就いている方のメッセージを掲載することで、キャリア教育の充実を図りました（学校教育法第51条第2号）
- 地域の文化を積極的に取り上げるだけでなく、地域の高齢者との交流や、伝統料理の実習、はっぴの製作、などの授業場面を取り入れることにより、生徒が体験的に身近なものとして伝統文化をとらえられるように工夫しました。また伝統文化を現代のファッションに取り入れた例や古民家再生の事例を紹介することにより、伝統文化を今に生かす視点も養われるよう配慮しました（学校教育法第51条第2号）
- 思考力・判断力・表現力を身につけるために、問題解決型学習における考察、話し合いの課題や、実習等をふり返し、まとめるための課題などの言語活動を充実させました（学校教育法第51条第3号）。
- 生活の衣食住における事象について、科学的な視点から考え、課題解決ができるように題材を工夫しています。自然科学・社会科学的な思考で、判断しようとする態度を身につけられるよう、題材を工夫しました（学校教育法第51条第3号）。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-138	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	家基 009-901	家庭基礎 明日の生活を築く		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1) 学習への興味・関心を図るための配慮

＊学習に入る前のガイダンスページでは、家庭科の学びの全体像がつかめるように構成しています。写真で視覚的に示すことにより、学習への興味・関心を喚起し、これからの自己の生活に引きつけて考えさせるように配慮しています。

＊各節〔1〕〔2〕の導入では、高校生がスムーズに授業に入れるように自分ごととして対応できる実生活につながる発問を設け、学習内容にすぐ取り組めるようにしています。

＊本文の内容はできるだけ生徒の関心や生活態度に即して記述しています。また、必要な箇所に「話し合ってみよう」「考えてみよう」などの課題や「参考」、「キャリア」（職業人のメッセージ）、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動につなげるための参考資料「高校生の取り組み」などの囲みを設定して、生活事象を科学的にとらえ、現代社会のさまざまな課題を意識し、考えながら学習、実践できるように配慮しています。

2) 学習を効果的に進めるための配慮

＊学習内容の理解を助けるために本文の側注を付し、補足説明を加えています。また、豆知識や参考の体裁をとり、本文と関連する用語について解説などを付しています。

＊本文中には、必要に応じて参照ページ（⇒p. ○○）やほかのページとの学習の関連が図れるように配慮しています。

＊生活設計の内容に関しては、「自分が拓く人生」のところで、導入的に扱い、家庭科学習の最後にアクティブな事例やデータなどを示し、自分で生活設計を考えるようにしています。

3) 多様な高校生が学ぶことへの配慮

＊本文文章の記述や図・写真などは、多様な高校生が学べるように配慮・工夫しています。

＊実習題材は、高校生が興味・関心をもって取り組める題材を選定しています。

4) 人間の生活と福祉のかかわりの意識化

＊人に関する学習では、福祉がどのようにかかわっているかを具体的に示すことによって、人の生活と福祉についての意識化がはかれるようにしています。

＊地域の中で、高校生も生活の主体として、積極的にコミュニティにかかわっていけるように、地域で行われている取り組みの事例を多数掲載しています。

5) 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の取り上げ方

＊学習した知識や技術を生かして、自ら課題を見出し、家庭や地域での生活を改善・充実しようとする積極的な態度が育成できるように、課題解決の道筋や実践例をヒントとして示しています。

＊各学習内容でも、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動につなげるために参考となる「高校生の取り組み」を設け、時期を問わず実践しやすくしています。

6) 構成

＊学習指導要領に沿った構成とし、その中で自立した生活者として幅広い視点から主体的に生活の充実・向上を図るために基礎となる力と、実践的態度を育成できるよう配列を工夫しています。

2. 対照表				
図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1章 青年期	①人の一生と青年期	A(2)	10～11	1
	②青年期を生きる		12～15	1
	③将来を考えながらこれからを生きる		16～21	1
2章 家族・家庭	①自分が拓く人生	A(2) (5)	22～23	1
	②個人・家族と地域・社会		24～29	1
	③家族と法律		30～33	1
	④共生社会を生きる		34～43	1
3章 保育	①子どもの世界	A(3)	46～47	1
	②あたらしい生命の誕生		48～51	2
	③子どもの発達		52～59	2
	④子どもとかかわる		60～67	2
	⑤社会の中で育て		68～73	1
4章 高齢者	①様々な高齢期	A(4)	76～79	4
	②高齢期の生活を支える		80～85	4
5章 食生活	①食の変遷とおいしさの追求	B(1)	88～91	2
	②食べ物は健康の決め手		92～103	5
	③調理にトライ！		104～119	10
	④日本と世界の食文化		120～125	1
	⑤食生活をプロデュース		126～137	1
	⑥持続可能な食生活		138～141	1
6章 衣生活	①被服の機能と着装	B(2)	144～151	2
	②快適な被服の科学		152～155	2
	③被服の入手と管理		156～163	2
	④持続可能な衣生活		164～167	2
7章 住生活	①様々な住まいと暮らし方	B(3)	170～173	1
	②健康で快適な住まい		174～177	2
	③住まいの防災・減災		178～181	2
	④持続可能な住まいとまち		182～185	1
8章 持続可能な消費生活	①生活を支える経済	C(1)(2)(3)	188～193	2
	②社会・世界とつながる家計		194～199	2
	③消費社会を生きる		200～207	2
	④持続可能な消費生活		208～213	2
生活設計		A(1)	216～223	3
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		D	224～229	(2)
		計		70

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-138	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	家基 009-901	家庭基礎 明日の生活を築く		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
166 ～167	被服の利活用	1	(2)イ 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。